

佐賀県総合運動場等整備基本計画検討委員会における検討状況

1 計画策定の目的

- ・佐賀県総合運動場、総合体育館、市村記念体育館は、施設の老朽化とともに、規模や機能が十分でないため、大規模な大会やキャンプ誘致の対応が難しい。
- ・平成35年の国民体育大会・全国障害者スポーツ大会開催のための整備はもちろんのこと、県民にとってスポーツを「する」楽しみだけでなく、「観る」「支える」「育てる」など、日常生活のワンシーンとして、スポーツが広く親しまれ、暮らしの中に溶け込み、長きにわたり県民の夢や感動を生み出す県内スポーツの一大拠点として新たに生まれ変わらせることを念頭に、グランドデザインを策定する。

2 検討内容

- ・利用者や競技団体等の視点に加え、街づくりの視点やスポーツイベント運営側の視点、スポーツツーリズムの視点、交通の視点など、委員会で様々な専門的見地から検討し、整備方針、施設の規模・機能、施設配置、交通計画等を取りまとめる。

3 スケジュール

平成28年度中に計画策定（委員会を6回程度開催） ※第1回：5/30 第2回：7/11

4 委員名簿 別紙

5 これまでの討議状況（主な意見）

- ・施設整備は、国体後のレガシー（遺産）をしっかりと考えて行うべき。
- ・総合体育館は2,000席程度で、プロスポーツには不足。機能面にも課題がある。競技団体からは、アリーナ新設の要望が出ている。
- ・「観る」スポーツを想定すれば、新たな体育館（アリーナ）が必要。
- ・市町施設は練習会場、県施設は「観る」スポーツに対応した施設と、役割を分けるべき。
- ・「観る」スポーツであれば、交通アクセス、駐車場、商業圏を意識する必要がある。
- ・現在の場所は、県内外からのアクセスも良く、施設の場所はこのままで良いと思う。
- ・そのスポーツを「好きな人」だけでは客席は埋まらない。そうでない人を呼び込む仕掛けが必要で、街づくりの中で施設をどう位置づけるかが重要だ。
- ・箱ができるだけでは人は動かない。施設をどう稼働させるか、どのようにコンテンツをプロデュースしプロモートしていくのか。その稼働方針と都市戦略とをうまく合致させ、ホテル事業などの観光産業を刺激していくことが重要だ。
- ・この委員会の役割は、施設の建設ではなく、国体後のレガシーとして、都市のアトラクションをどう造るかだと思う。